

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		令和7年福津市教育委員会第2回定例会
開 催 日 時		令和7年2月13日(木) 午前 9時30分から 午前10時49分まで
開 催 場 所		福津市役所 本館2階大会議室
委 員 名		(1) 出席委員 農崎委員、田中委員、村井委員、 森委員 (2) 欠席委員 なし
所 管 課 職 員 職 氏 名		石津教育部長、吉住教育部理事兼主幹指導主事、吉崎教育総務課長、石井学校教育課長、芹野郷育推進課長、徳永中央公民館長、占部文化財課長、鶴口主幹兼指導主事、木村指導主事兼教育指導係長、内兼久総務企画係長、古沢主事
会 議	議 題 (内 容)	・日程第 1 開会の宣言 ・日程第 2 会議録署名委員の指名について ・日程第 3 報告第3号 福津市中央公民館の機能の再定義・再配置に係る答申の報告について ・日程第 4 議案第4号 福津市中学生スポーツ・文化芸術活動推進計画の策定について ・日程第 5 議案第5号 令和7年度福津市学校教育ドリームプランの制定について ・日程第 6 諸報告 ・スケジュールについて ・日程第 7 閉会の宣言
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0名
	資料の名称	

会議録の作成方針	☐ 録音テープを使用した全文記録
	☒ 録音テープを使用した要点記録
	☐ 要点記録
会議録署名委員	田中委員
	村井委員
その他の必要事項	
審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
内兼久係長：教育長不在の間の会議の進行は、教育長職務代理者である田中委員にお願いしたい。 田中委員：今日は、傍聴の方はいないため、このまま議事を進める。 日程第1 開会の宣言 田中委員：構成委員4名のうち、ただいまの出席数は4名で、定足数に達し、教育委員会は成立するため、令和7年福津市教育委員会第2回定例会を開催する。 直ちに会議を開く。 本日の議事日程は、お手元に配付のとおり。 日程第2 会議録署名委員の指名について 田中委員：福津市教育委員会会議規則第17条の規定に基づき、会議録は私田中と村井委員で確認、署名することとする。 日程第3 報告第3号 福津市中央公民館の機能の再定義・再配置に係る答申の報告について 田中委員：事務局に説明を求める。 （芹野課長が報告第3号、福津市中央公民館の機能の再定義・再配置に係る答申の報告について、会議資料を用いて説明） 田中委員：本案に対する質疑を受ける。 無いようなので、質疑を終結する。 報告第3号、福津市中央公民館の機能の再定義・再配置に係る答申の報告については、附属機関への諮問に対する答申であるため報告のみとする。 日程第4 議案第4号 福津市中学生スポーツ・文化芸術活動推進計画の策定について 田中委員：事務局に説明を求める。	

(芹野課長が議案第4号、福津市中学生スポーツ・文化芸術活動推進計画の策定について、会議資料を用いて説明)

田中委員：本案に対する質疑を受ける。

村井委員：4ページ(2)ウ、エについて質問。

ウに、教職員の長時間勤務の解消等の観点から円滑に部活動を実施できるよう部活動指導員を任用し学校に配置するとある。エにある外部指導者はわかるが、部活動指導員とは、どのような立場の人か。

現在、おそらく外部指導者が、配置されていると思うが、部活動指導員は、配置されているのか。現状を知りたい。

吉住指導主事：国、県、市で3分の1ずつ、国と県で3分の2の補助があり、3分の1が市。各学校3名の定数で部活動指導員を確保できている状況。おそらく福間中学校だけ1名入っていない。

おおよそが、元教員や、昔から地域で部活動やスポーツを指導していた方々。ある程度、資格などの任用規定があり、要件を満たされた方が、任用され、配置されている。

村井委員：外部指導員は、福津市、宗像市、色々な市にもいると思うが、部活動の偏りや、学校の苦悩というところに、適宜、外部指導者が入っているのかは、心配。

農崎委員：外部顧問、外部指導者、部活動指導員という方がいるということで、外部指導や部活動指導員の方は、謝礼などいただいているのか。

そうであれば、福間中の剣道部のご年配の方は、おそらくボランティア。そこは差があるのではないか。謝礼をもらっている方がいると初めて聞いた。

同じ学校でも、部活によって全然違う。保護者同士でもよく話題になる。部費の違い、送迎の負担、最初にかかる費用など色々あると思う。親としては、入学説明会で、この部活は、いくらかかるなど教えてもらえるとありがたい。

入学するにあたり色々お金がかかるため、統一できたらと常日頃思っている。

今回、部活動に介入する形のため、そこも併せて、福間中なら福間中として学校ごとのまとまりをもってもらったら、ありがたい。

内容を読み、ここまで作るのは大変だったと思う。これから色々動かしていく中で、修正などたくさんあると思うが、ぜひ子どものために頑張ってもらいたい。

吉住指導主事：保護者より、部費がどのくらいかかるか早く知りたかった、それにより部活動を選択できたのになど、各学校で声を聞いている。各学校へは、部活動説明会の際には知らせるなどするよう伝えているところ。

市の認定クラブも、子どもたちが、選択できるようにするため、かかる費用、どのような認定であるのか、どのようなクラ

ブがあるのかを、保護者、生徒にも知らせられるようにしていきたいと考えている。

田中委員：他にないか。

無いようなので、質疑を終結する。

これより、議案第4号を採決する。

議案第4号は、原案のとおり可決することに賛成の方は、挙手願う。

（全員賛成）

全員賛成である。よって、日程第4、議案第4号、福津市中学生スポーツ・文化芸術活動推進計画の策定については、原案のとおり可決された。

日程第5 議案第5号 令和7年度福津市学校教育ドリームプランの制定について

田中委員：事務局に説明を求める。

（石井課長が議案第5号、令和7年度福津市学校教育ドリームプランの制定について、会議資料を用いて説明）

田中委員：本案に対する質疑を受ける。

村井委員：施策1、接続可能な社会の創り手の育成について質問。

指標の一番下、地域や社会への貢献意識について、令和7年度目標値が、令和6年度実績から下がっている。なぜか。

施策3、誰一人取り残さない学びの保障について。

福津市は、過大規模校、小規模校がある。過大規模校であっても先生方は、一生懸命頑張っている。華々しい文化祭、体育祭、合唱コンクール等で子どもたちの姿を見たり、学校訪問したりし、事業一つ一つについても頑張っているというのをつくづく感じる。

その中で、学校に来ることができない、学校の支援ルームに来ている子どもたちが、小学校も中学校もかなりいると思う。

そこを充実させると書いてあるが、充実させるためには、そこに先生を配置しなくてはいけない。

学校に、教室に入れない子どもがどのくらいいるのか。

保健室や支援ルームに入っている人たちについての教師の配置はどうか。

何度も行ったことはないが、福津市教育支援センターのひだまりは、子どもたちがほとんど来ていないという状態。福津市として、担当者、教育委員会もその場所へ足向け、どうにかして取り残さない学びの保障をしてあげないといけない。

親は手一杯。家から一歩も出ることができない子たち、学習に向かうことができない子たち、それぞれ様々な形があると思うが、そこに手を打っていかないといけない。かなりの数が、いると思う。

教室や学校で一生懸命やっている子、そこに立ち入れない子たちがおり、そこに手を差し伸べたいけど授業で一生懸命で回せないとなると、学校の支援ルームが活用できないし、子どもたちも、行っても先生が来ないとなってしまう。違う場所で手を尽くさないといけないと感じた。

田中委員：村井委員から2点。

施策1、目標値の件、施策3、学校に行きづらい子に対する対応の件について質問があった。

木村指導主事：1点目、施策1の一番下の指標は、誤り。

資料は、令和6年度実績と、令和6年度目標の数値を記載しているため、令和7年度目標の数値に修正する。

農崎委員：令和6年度は、実績が、目標を上回ったということか。

木村指導主事：はい。

石津部長：計画であるため決めておく必要があるため、現在の全国の数値等を確認し、再度、目標の数値を提案させてもらいたい。

森委員：このような数値目標を挙げる場合は、背景があるはず。

今年度は、さらに上げようと指標を上げていたら、とんでもないことになる。そこは、どう考えているか。

例えば、全国学力調査などは、全国平均を上回ることが県の指標。地方は、それに準じてしている。基本的に、目標を上げなければいけないという必要性は無いと考える。

指標の根拠を知りたい。例えば、小学校81.9%であったから、次の令和7年度は、82%にしようというのは話にならない。

目標値を上げることは、非常に大事であり、みんなそれに向かってやる。そうすると、どんどん上がっていくが、そのようなことはあり得ない。上げれば良いということでもない。その辺は、しっかりしておかないといけない。

指標は、大変重要で、みんなそこを意識する。

資料のその上、地域貢献活動の目標値は、2,500名、1,200名となっているが、根拠を知りたい。どのような意図でこの数値を目標にしようとしているか説明をしてもらわないとわからない。

木村指導主事：目標値を上げると、どんどん増えてしまうという先ほどのご意見があったが、人数に関しては、例年目標まで達していたため、より次の人数、これからも活性化していきたいという理由から目標値を上げていた。

森委員：これは令和6年度よりもアップという表現でもいいのでは。

1,200名、2,500名と書くと、2,500名にならなかったことを考え、大事な目標や狙いが消えてしまう。目標値は、気をつけた方がいい。前年度以上などでも良いのではないかと思った。

田中委員：森委員からの意見であった。

全国平均などの資料が揃ったようだが、数値はどうか。

木村指導主事：資料の一番下、地域や社会への貢献意識、地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思うかのところで、令和6年度小学校全国平均83.5%。福津市は、全国より若干低い。

中学校は、全国平均76.1%。福津市は、全国より10%ほど高い。

小学校全国平均83.5%に届くよう目標値を83%にするなど考えられる。来年、全国平均が同じとは限らないが、本年度平均を基準とするならば、小学校83%、中学校76%以上と設定できる。

石津部長：全国水準という話もあったが、事務局の考えとしては、小学校については、全国83.5%の水準を目指す83%。中学校については、全国76.1%を上回った実績85.3%であるため、85%の水準維持で85%としたいと考える。

全国が下がれば、福津市が下がって良いということではないと事務局は考えるため、このような内容で提案させていただきたい。

田中委員：小学校83%、中学校85%、今の水準を維持するという案。

委員の意見は、毎年上がっていくのではなく、今言われたような県や国の指標、平均などを踏まえ、根拠ある指標を挙げる、無理はしないでいいという意見。

委員は、目標83%、85%とすることについてよろしいか。

森委員：はい。背景を理解した。

田中委員：委員の意見も踏まえ、おそらくそうではないと思うが、単に数字を上げていくだけではない、ということでの質問であった。

もう1点、村井委員からの施策3、不登校等に関する質問。

森委員：関連して質問。

家から出るということは、重要。施策としてフリースクールなどを考えていかざるを得ない。現在、宇美町が行おうとしている学びの多様化学校を作るなどということがある。ひだまりは、学校適応とするため、外に出ることとなる。

コロナのときに行われたと思うが、学習は、外に出られなくても、オンラインの普及により、家で学ぶこともできる。他市町村では結構行われている。そのような施策は考えていないか。これは、お金がかからない。

お金が必要なものは、難しいこともあるため、お金がかからないものからしなければならない。

学習関係で、不登校の子どもたちは、家で勉強をできるようにする。オンラインで繋がって勉強したら保護者も安心する。

家を出ることができない子どもは、色々考えていかないといけない。

田中委員：不登校の学びについて、オンライン授業などもあるのではない
か。その辺は、考えているかという質問。

ひだまりや中学校での現状は、参加者が少ないということ
で、もう一度手立てを出した方がいいのではないかという質
問。

多様な子どもたちに対応できるようにするため、職員の配置
はどうかという質問。

この３点について事務局へ回答を求める。

石津部長：不登校の関係について。校内に、行くことができる子、行くこ
とができない子がいる。来るにしても人的サポートが無いと
中々難しいのではないかというのと当然事務局もそう考えるが、
実際に、人員が必要ということは、お金も必要ということに
なってくる。

その辺を見極めながら、事業推進については、市長部局と話
をしているが、中々そこに至らずOKをもらえていないのが現
状。人的サポートについては、今後も市長部局と話していきた
いと考えてる。

ひだまりについて。行く人の数が、少ないのではということ
で、実際、登録者が十数名であり、少ない状況。１日数名が来
て、体力をつけるなどという活動をしている。

ひだまりが、どのような役割を担っていくべきか、教育委員
会が望むあり方については、今、事務局で議論している。来年
度に向けて進めていきたいと考えている。

オンライン学習について。不登校の子が、オンラインで学校
の授業を見るようなことは、今も行っていると思われる。学校
により取り組みの差はあり、中々取り組めていない学校もある。

休んでいる、不登校など本人や保護者の意向もあり、タブ
レットと通信環境があればお金がかからないものであり、取り
組みについては、今後も、学校と保護者との中で進めていける
かと考える。

森委員：ひだまりについて、市に適応指導教室委員会等はないか。ひだ
まり委員会などでもいい。名前は何でもいいが、適応指導委員
会など、ひだまりを充実するような委員会を組織化し、そこに
学校の先生も入り、市全体で、みんなでしないといけない。ひ
だまりにお任せとなるのは、いけないし、進まない。ひだまり
をフル回転させることがとても大事。

オンライン学習についても、コロナ禍のときは、どちらかとい
うとその傾向だったが、学校や個人任せではなく、学校にい
るＩＣＴ推進委員等を中心として、環境を整えなければいけ
ない。ある教室をオンラインの教室にし、保護者と対峙しながら
学びの保障をするということをすれば、親は大変ありがたいは
ず。

できるだけ学校全体の体制としてやっていく、そうすると、もっと学ぼうとなっていく。

これは、不登校の子が学校に行くことが目的ではなく、社会的自立が目的、そこで学ぶことが大事。

オンライン学習は、お金が不要。みんなタブレットを持っている。Wi-Fiは、貸し出しできるのか。

石津部長：Wi-Fiの機械は貸すが、通信費は、保護者負担となる。

森委員：最初から宗像のようなフリースクールを作るなどは言うておらず、やれることから、少しずつ進めないと厳しいと考える。

田中委員：3点あった。

多様な子どもたちに対応する場や職員については、予算の関係があり、引き続き、教育委員会から市当局へ要望していくということであった。

ひだまりについては、ひだまりを活性化するための委員会があれば、どうかという意見。

森委員：適正指導委員会や推進委員会は、市にないのか。ないのであれば、作った方がいい。

石津部長：ひだまりに特化したものはない。教育委員会事務局の中で、適宜、議論している。

田中委員：今のところ事務局内で議論していると。現場も含めてという意見であるので、よろしく願います。教育委員も意見を持っているので、教育委員会に限らず、他のときにも意見を聞き、より良くなるようにしてほしいと考える。

森委員：例えば、ICT関係で、市にICT推進委員会を作るのと同じ。それがなかったら、事務局と学校の個人的な関係だけで終わってしまう。年に何回、2ヶ月に1回など定期的にしないと進まない。組織がないのであれば、ぜひやるべきだと思う。

田中委員：3点目、リモートなどは今進めているが、学校と協議し、さらに充実してほしいということでよろしく願います。

ドリームプランについて、他に質問ないか。

森委員：施策1について、今回、課題解決が挙げられており、とても良いと思う。

ただ、学校運営協議会の熟議が消えている。これは、二重丸のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の課題解決の中に内包しているからだろうが、次ページ、施策1の主要事業に、学校運営協議会についての事業が何も入っておらず、昨年のままのような気がする。どちらかというと、地域学校協働活動の取り組みが2つ入っている。

昨年までは、別項で学校運営協議会の熟議を実施すると書いているから良いが、今回これを内包したので、主要事業にもう1つ丸を加え、おそらく市は、やっているはずだが、熟議のテーマを位置付けた年間指導計画を作成して提出するなどをここに入れた方が良くと思う。そうしなければ一体的推進になら

ないだろう。

一番下の指標についても、アンケートによるコーディネーターの声と、もう1つ、今は基本的に全部出ているかと思うが、それを全て出しているかどうかにも入れた方がよいのではないか。

昨年の分、年間計画を見て、しっかり指導しているかが気になった。あれは、とても良いことをしているので、モデル例を啓発するなどの取り組みは、教育委員会がしなければならないと思う。指標の一番上は、2つ挙げた方がよいのではないかと考えている。

施策3、誰一人取り残さない学びの保障について、良いと賛同。

施策4について、去年は、働き方改革の推進と若手の育成になっているが、今回、丸1つで働き方改革の推進、別に丸1つで人財育成の推進と切り離した方がよい。

先程の説明では、人財育成と書いてあるが若手関係のことを言われた。若手だけに絞るのではなく、ミドルリーダー等もチーム学校の人財育成の先導者として、鍛える、育てないといけない。

若手だけに限らず、別項で人財育成の推進とした方がよい。

働き方改革についても、誤解を招かないように、教員のウェルビーイングと働き方改革とする方がよい。

若干の修正をした方がよいと思ったが、どうか。

田中委員：2点あった。

1点目、熟議について、ドリームプラン全体は、このままでいいが、熟議のことを施策の説明の方に挙げた方がよいのではないかとということ。

森委員：説明には、熟議のことが何も入っていない。1番のキーワードは熟議。

全国の中で、福津の一番の自慢である。

進化、追及の段階であるため、熟議は、主要事業の中に入れるべきだと思う。

石津部長：熟議については、あった方が良かったかと考える。

主要事業のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進による課題解決の中に、二重丸と一つ丸があり、その中に昨年度の熟議のことを、そのまま追加する方向でいきたい。

森委員：今、施策1が3つある。4つにするのか。

石津部長：3つのまま。概要図は、変えない。主要事業の一番上、内容の枠に、一つ丸を追加する。

森委員：それでよいと思う。

一番上のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の指標は、1つだけだが、熟議の充実のところの施策で、今、年間計画を出しているはず。教育委員会に出させてい

るはず。あれを指標に入れたらどうか。

石津部長：１００％にしかない指標になるのではないか。

森委員：出さないといけない。出して、啓発するところまで、今までやっている。

石津部長：数値化して評価していかないとはいけないと考える。

森委員：数値化は、全員、全学校提出としか書けないだろう。

石津部長：そうすると、当然、教育委員会としては、学校に対して提出を求めているものについての評価は、１００％でないことは、有り得てはいけないと考える。

森委員：出すことだけでなく、出した内容を見て、それを返してはいかないといけない。

田中委員：そこは、やっていくか。

石津部長：当然行っていく。

評価、指標としては、変わりようがないことかと思う。

一番下の指標などは、子どもに聞いたりするため、ブレがあり、指導と子どもの受け取りのマッチングの問題があると思うが、学校を管理する教育委員会として、学校に出すように言ったものが出されないということは、あつてはいけないものと事務局は考える。

森委員：そうであれば、違う指標を挙げたらいい。熟議の充実という意味での評価を入れたらいいと思う。

今行っているもので入れるなら、年間指導計画の充実しかないと思ったため、それに関するものを挙げればいいのかと思ったが、それ以外にあるならそれを書いてほしい。

体験や場が増えても、それはどうしても地域学校協働活動の方。いつも根拠部分として、コミュニティ・スクールの充実が、市教育委員会に挙がってこない。

当たり前かもしれないが、ここに位置づけた方がいいのではないかと思った。当然ながら、全ての学校が提出すると思う。

または、熟議の充実の事業について、指標を作ることができるならば、それでも良い。

田中委員：主要事業の中に、１項目、熟議について入れることは確認する。

指標については、ここに挙げなくても、教育委員会が実施することなので、しっかり評価し、そして学校に返していくことを行うということで、よろしいか。

大事なところであるので、来年に向けて、指標のあり方については、また検討が必要である。

森委員：指標を挙げるのであれば、提出だけでなく、他の学校の良い例を紹介するなど、返して、ケアするということで共通理解すればよい。出しっぱなしは、一番良くない。

田中委員：おそらく今行っているとは思いますが、よろしくお願いします。

もう１点意見があった。

森委員：働き方改革の推進と、人財育成の推進を分けること。若手に限らず人財育成することについて。

石津部長：若手については、向学心を高める取組の充実の方に移している。

学力も含めた向学心を高めるためには、教員の能力等が大事である。特に、若手教員が増えている現状においては、実践研修などにより指導力の向上をしていく。このような内容は、向学心を高める取組の充実のところに含めている。

働き方改革については、早く帰る、定時で帰ろう、とだけ言っても駄目で、そのためには教員が早く帰るための仕事の回し方や、教材研究のやり方を進めていくための人財育成が必要。

働き方改革を推進すること、そのための人財育成というセットとして今回整理した。

田中委員：そのような趣旨があり、関連することである。働き方改革の推進と、人財育成の推進を丸1つずつで独立させた方がいいのではないかという意見であったが、どうか。

森委員：関連することであり、このままでよいと思う。

人財育成については、若手に限らずということで確認する。

ミドルリーダーの人財育成は、今とても大事。大規模校が多いため、福間南小などは極端に言えば、1年生の学年の校長になれるくらい。各ベテランの方たち、ミドルリーダーが、リーダーシップを発揮しないとパンクする。

なおさら、そのような意味での人財育成ということを謳って、OJTなどを工夫して、人財育成を図っていかなければならない。

田中委員：他に質疑はないか。

森委員：施策2、向学心を高める取組の充実の目的について。小中9年間を見通した連続性のある教育の実現を目指し、とある。これは、消した方がよいのではないか。

これがあると、どうしても小中一貫校のイメージを持ってしまう。小中一貫校なのかという声を今までにたくさん聞いた。

目標の続きに安心感のあるなどとあるので、ここは、言葉を変え、学校のウェルビーイングの向上を目指し、各学校における魅力ある授業づくりや安心感のある学級づくりを推進するとともに、非認知能力の育成を中心とした学力向上を図る、という形にした方がよいのではないか。

福津は、宗像のように小中一貫校ではなく、コア的なところで教育課題の共通課題について連続するものであるのに、先生たちは、小中9年間を見通した連続性のある教育というゴールを目指して授業をしたり、小中一貫を意識してしまう。

中学校のこともしなければいけないし、自分の学校もしなければいけないという先生たちの忙しさになってくると、かわい

そうとなる。

第4期教育振興基本計画にあるウェルビーイングの向上、幸せ感を出した方が、福津の場合、安心感のある学校や、非認知能力が上がってきており、そこに繋がってくるので、非常に良いのではないかと。

福間南小や福間小への学校訪問で、学校が楽しいというのが、90何%で驚いた。学校の楽しさや、保護者の満足度、子どもが楽しく学校に通っていると感じているか、これも90%代であった。過大規模校であっても90%以上であり自己肯定感を高めるような取り組みをしている。

ウェルビーイングは、これを上げることが目的とする。

そこに特化して書いた方が、福津の特色は、出るのではないかと。

宗像から来る先生たちも多く、この目的を見て、小中一貫ではないか、小中一貫とした方が良いとの意見が聞こえてきそう。

小中9年間を見通した連続性については、共通課題だけとおそらく言われると思うが、文章ではそうなれない。少なくとも、共通課題においてと書いておかないといけない。

それよりもウェルビーイングの方が良いのではないかと、そこに充填したほうが良いのではないかと。

石津部長：福津市教育総合計画では、確かな学力の育成の中に、各学校において、確かな学力を子どもに身に付けさせる魅力ある授業づくりや安心感のある学級づくりを推進できるよう支援を行う。また、小中9年間の学びや育ちを支えるために、中学校ブロックでの小中連携による学力向上の取組の支援を行う。と書いてある。小中9年間を見通した連続性ある、とは書いていないが、9年間の、と書いてある。一般論の小中教育の初等教育の話かもしれないが。

施策1、共通の教育課題の解決に向けた、は良いと考える。

森委員：施策1は、共通の要素も入っている。良いと思う。

施策2、向上心を高める取組の充実についてが、9年間を見通した連続性のある教育の実現を目指していることを書くと、学級経営も全てになるため、おかしくなる。

安心感のある学級づくりや、非認知能力の育成を中心とした学力向上を図ることを挙げているため、ウェルビーイングの向上の方が合うのではないかと。

ただ、全体の政策に合わないとなると、おかしくなる。

言っている内容は変わらないのだが、文章で書くと明確になる。

田中委員：森委員からの意見であった。

内容を理解したと思う。今すぐはできないと思うが、その方向で表記を変更していくのか、検討するのかわからないところはどうか。

石津部長：事務局として、今回はこれでいきたい。

来年度、教育大綱の見直し、その後、総合教育計画の見直しと進む予定。その中で、国の第4期教育振興基本計画のウェルビーイング等も踏まえながら、見直していくことになると考えている。

田中委員：来年の改定の中で、今、森委員が言われたことなどを踏まえて、検討していくということでよろしいか。

先程の目標の共通のところは、入れるということによろしいか。

森委員：もう1点。施策2の指標に、学力向上の自己肯定感などは、アンケートとしてある。学校が楽しいかや、保護者の満足度はなく、調査しているのならば、この指標に入れられないか。

福津市は、ハード面の建物で言われていたりしており、ソフト面は、このように充実しているという根拠を発信した方が良いと思った。これは意見である。

田中委員：今後、委員からの意見も踏まえ、来年度、このドリームプランが、子どもたちのためにプラスになるようになっていけばと思う。それを踏まえ、再度考えていってもらえればと思う。

他にないか。

無いようなので、質疑を終結する。

これより、議案第5号を採決する。

議案第5号は、原案のとおり可決することに賛成の方は、挙手願う。

（全員賛成）

全員賛成である。よって、日程第5、議案第5号、令和7年度福津市学校教育ドリームプランの制定については、一部修正の上、可決された。

日程第6 諸報告

田中委員：スケジュールについて。

（内兼久係長がスケジュールについて、会議資料を用いて説明）

日程第7 閉会宣言

田中委員：以上で本日予定していた議事日程は全て終了した。

これで令和7年福津市教育委員会第2回定例会を閉会する。